

---

# 俺の想像。ココロの中。

神影 零緋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の想像。ココロの中。

### 【Nコード】

N6685V

### 【作者名】

神影 零緋

### 【あらすじ】

短編を色々つくってたものがかいて見ました。  
黒蝶の『ボツふぁいる』みたいな。  
黒「呼んだ？」  
呼んでねえよ。

正義じゃないから。(前書き)

ホラーかな？

正義じゃないから。

其処には悪どいFを殺している

一人の少女がいる。

「あはははは みんなみーんな殺す」

サラツと言うこの少女は

自分から言った。

「みんなはいいなあ。

『加害者』で

『原因』で

『壊れた』僕と違って

…『被害者』だけなんだから」

少女の周りは誰もいない

否。答えるものはない。

人は…いる。

原型を留めていないだけで…

「さて。」

何をしようか。

「そうだ！

確かこの人が言ってた

【ルートアビーF】

つぶしに行こうか。」

情報によると

子供を使って人体実験をしてるといふ。

「…僕は正義じゃない。悪を殺してるとは言え人を殺してるんだ。」

だからこそ。

「だからこそ僕は…  
生きていられるんだ」

正義じゃないから。

正義として生きてるんじゃないから。

ねじ曲がった世界は  
今日も僕らを乗せて…  
回った。

正義じゃないから。(後書き)

自己満です。

たまに短編書きたくなる。

R18 いるかなあ？

あああああああ（前書き）

暗いので

見る勇気がある人はどうぞ。



ああああああ

「ああああああ」

それがはじめて発した言葉。

「俺の視界からキエ口。」

これが二つめの言葉。

「なんで生きてるの？」

これが三つめの言葉。

これは親の真似をした結果。

生きるために覚えた言葉。

大人になった時、僕はどうなるんだろう

これがはじめて考えた感情。

こんな風には成りたくないな

これが二つめの感情。

生きてる価値はあるのかな

これが三つめの感情。

これは一人の人の重い感情。

暗い暗い暗い感情。

でも暗いと言うことがワカラナイ。

ボク、は、オカシイノ？

あああああああ（後書き）

自分で書いてて怖くなりました。

空白世界にて。(前書き)

ホラーじゃないですよー  
何なんだろうね。

…ファンタジー？

空白世界にて。

僕にもう少し能力があったら  
僕にもう少し勇気があったら  
僕にもう少し自信があったら  
今頃キミは笑ってた？

彼女：  
『いいえ』と言った。

僕にもう少し才能があったら  
僕にもう少し理由があったら  
僕にもう少し希望があったら  
今頃キミは笑ってた？

彼女

『いいえ』と言った。

じゃあ、どこどこで、どこどこでキミは

此処にいないの？

『キミは勘違いしてるから。』

何を？

『彼女が貴方を…』

守ったの』

ああ。

僕はキミを勘違いしてた。

キミはこんなに

強く、美しかった。



空白世界にて。(後書き)

ああ。…なぐんか

途中壊れたなって

書いてから思った。

サブタイトルは何だったんだ？

天ノ弱

って曲を聞いてみて下さい！

いい曲なんだよ

ひつじぼっちのお嬢様。(前書き)

みじみじおとあ

ひとりぼっちのお嬢様。

『そらはきょうもはれてるね』

『うん、そうだね。きれいだね』

『おひさまがひかっているね。』

『あかるくてまぶしいね。』

「お嬢様！もうおやめ下さい！」

『なにかうるさいね。』

『うん、うるさいね。とめようか。』

「お嬢様！」

泣き叫ぶ執事らしき人。

「そこには誰もいない！」

『…うるさいね。』

『うるさいね。』

「一人自演してなにが楽しいんですか！」

『なに言ってるの？彼は彼だよ？』

『僕は僕だし彼女は彼女だよ』

「お嬢様……」

お嬢様はもういない。

いるのは狂ったお嬢様

本当のお嬢様は

永遠に闇の中…

ひとりぼっちのお嬢様。(後書き)

いや、執事いるからふたりじゃん。

とらっしんっしんはちめてたやろ。

作者も書き終わってから気づいた。(殴)

あなたにごめんなさい。(前書き)

残酷描写あり…なのかな？これ

見てくれる方には失礼なほど

放っぼってましたね。

すみません。

アナタにごめんなさい。

「くそっ…ハアハア…こんなに多いとか…」  
聞いてねえ…。

黒いコートの人物は

まだ後百人は居る残兵を見て呟く。

その周りには何万もの人……とは言え

脈は既に止まっているのだが。

コートは破れ、中からは大量の血。

つまりコートの人物も無傷ではなく

息絶えることは確実だろう。

「後二十分…て所か。」

自分でも自覚しているらしい。

「ふっ…来いよ。」

その言葉を合図の用に残兵は動き出す。

コートの人物はかかってくる敵に



慣れた手付きで鎌を振るう。

「…終わるか。敵も…自分も」

約十五分程だ。

その時間は長いようで短い。

フラフラと静かなところ…いや、

何も無い所に向かう。

周りは真っ赤だが、

あまり動き回って無かったためか

少し歩くと何にもない。

コートの人物が其処に座り込む。

フワリと取れたフードの奥には

綺麗な顔立ちの…女性。

「最期にこれだけ暴れたんだ。悔いはない」

アナタの為に戦う。

それだけで私は嬉しいんだ。

もう少しアナタと居たかった…なんて

「我が儘が過ぎるよ…？私」

何も無い其処は既に

赤く染まりきっていて、それが余計に…

彼女の最期を意識させる。

「ああ、ごめんなさい。」

「アナタとの約束守れなかった」

「私の分まで生きて」

「【】。」

目を瞑り、眠る女性の瞳からは

涙が一粒流れていた…。

『死ぬ時は一緒だからね!』

『うん。先に死なないでよ?』

『わかってるって!』

『約束だからね!』

アナタにごめんなさい。(後書き)

最後の『』は女性の約束です。

相手が一体何者なのか。

親友、恋人、親族…。

これはご想像にお任せします。

相手によって見方が変わりますから

ここは読者に考えて貰いますね。

ではでは。また次回…。

## 遠い昔のお話。

空を見上げた。

…清々しい位の晴天だった。

光が木々の隙間から差し込むのを

黙って見ていた。

「…まだ、此処にいたのか」

「ええ。彼は此処が好きだった」

「…そうだったな。俺が怒る度に此処に来ていた」

逆光で顔が見えないが、笑っているらしい。

「お前は…何時まで待ち続ける」

低いトーンで問われ、少し戸惑いながらも

「そうね…何時までも、よ。帰って来るのを信じてるから」

と、答える。

「そんな事したら、お前が壊れてしまう！」

「壊れないわ。私は彼から預かったの」

「なら尚更だ!」

「…貴方は一つ勘違いしてるわ。貰ったんじゃない、預かったの」

「彼奴はもう帰って来ない!」

「いいえ、帰って来るわ。預けたものを取りにくる」

「…」

ふと、太陽を雲が隠し顔が見える。

「…ちょっと、どうして悲しい顔をしてるの?」

「…お前もだろう」

「そんな事…あるかもしれないわね」

自嘲気味に笑う。

「私は…此処で彼を待つ。帰って来る事を祈りながら…」

「そんな時は…一緒に祈ってやるよ」

遠いむかしの話、

1人の男は

世界を救うために  
故郷を旅立った。

彼は、嫌われていた。  
故郷の人々に。

「俺が行っても誰も悲しまないさ」  
彼は旅立つ時にそう言った。

「…ねえ、」  
『。貴方が旅立って…』

「私は、悲しいな」

遠い昔のお話。(後書き)

何となくのお話。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6685v/>

---

俺の想像。ココロの中。

2011年10月28日11時13分発行